

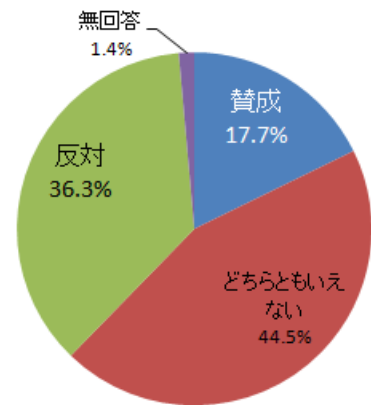
高校教員の17.7%が秋入学に賛成、反対は36.3% 高校生の意識とは対照的な結果に ～高校教員の秋入学に関する調査～

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：鬼頭 秀彰）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）では、高校の進路指導・キャリア教育の現状を明らかにするため、全国の全日制高校の進路指導主事（一部単位制含む）1,179人に対して秋入学に関する調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

■ 高校教員の17.7%が秋入学導入に賛成。反対の36.3%の半分程度であった。 ～高校生の意識とは対照的な結果に→P3

- ・ 秋入学の導入に賛成している高校教員は17.7%と、反対している教員（36.3%）の半分程度であった。
- ・ 高校生の意識（小社が2012年4月に実施した『高校生価値意識調査』、以下同）では、賛成が37.8%、反対が19.5%という結果となっており、教員と高校生の意識が対照的であることがわかった。

■ 大学の「秋入学」実施賛否（単一回答）



■ 導入に“賛成”“反対”の理由は、いずれも「高校卒業してから大学入学までの期間」がトップ ～ギャップタームの活用方法が課題に→P4～5

- ・ 賛成理由

第1位	高校卒業してから大学入学までの期間を有効に使える	48.8%
第2位	大学の国際化が進む	46.9%
第3位	留学やボランティアの機会が増える	43.1%
- ・ 反対理由

第1位	高校卒業してから大学入学までの期間がムダ	68.7%
第2位	高校在籍中の進路指導が難しくなる	40.4%
第3位	家計の負担が増える	32.0%
- ・ 高校生の意識と比較すると、賛成理由の第1位「高校卒業してから大学入学までの期間を有効に使える」について、高校生は67.5%と、教員の48.8%を約19ポイント上回っており、ギャップタームの活用イメージに大きく差があることが明らかになった。

■ 秋入学が導入された場合、大学の国際化は推進されると考える高校教員は4割弱。→P6

- ・ 秋入学が導入された場合、「大学の国際化が推進される」と考えている高校教員は38.8%。「変わらない」と考える教員18.3%の約2倍となった。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】
 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

- 調査目的：全国の全日制高等学校で行われている進路指導・キャリア教育の実態を明らかにする
- 調査期間：2012年10月15日（月）～10月31日（水）（11月5日（月）到着分までを入力対象とした）
- 調査方法：質問紙による郵送法
- 調査対象：小社『キャリアガイダンス』を発送している全国の全日制高校の進路指導主事4,999人（一部単位制を含む）
- 集計対象数：1,179人（回収率23.6%）

※高校生価値意識調査2012

- ・ 調査目的：高校生の将来イメージおよび進路選択に対する価値意識を把握する
- ・ 調査期間：2012年4月13日（金）～4月20日（金）
- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 調査対象：株式会社マクロミルのモニター会員のうち、2012年3月時点の高校生を対象にスクリーニング調査を実施し、下記の①もしくは②に該当した者。
 - ①2012年4月現在、高校2年生、3年生で大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。
 - ②2012年4月現在、高校既卒者で、高校時代に大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討したことがある男女。対象数は条件に該当した者から、平成23年度学校基本調査（確定版）の「全日制・本科生徒数（県別）」を基に、関東／関西／東海／その他エリアの4つのブロック別に、回収数が実際の生徒数の比となり、かつ各ブロックごとの高校1年生～3年生（3月時点）の数は均等となるように設定した。

・ 集計対象数：1,239人

※本プレスリリースに該当する秋入学・グローバルに関する設問部分のみ、現高校2年生・3年生の826人を集計対象とした。

【回答校プロフィール】

■ 高校所在地（全体／単一回答）

(%)

	調査数	北海道	東北	関東・甲信越	東海・北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答
2012年：全体	1179	7.5	10.3	28.8	15.1	13.2	11.6	12.9	0.5

■ 高校タイプ（全体／単一回答）

(%)

	調査数	普通科単独校	普通科中心で学科併設校	総合学科単独校	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校	その他	無回答
2012年：全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2

■ 大学・短大進学率（全体／単一回答）

(%)

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満	無回答
2012年：全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5

※「養護学校」「通信学校」の回答があったが(1.1%)、大学・短大進学率が不明であるため、左表に含んでいない。

【大学の「秋入学」に対する実施賛否】

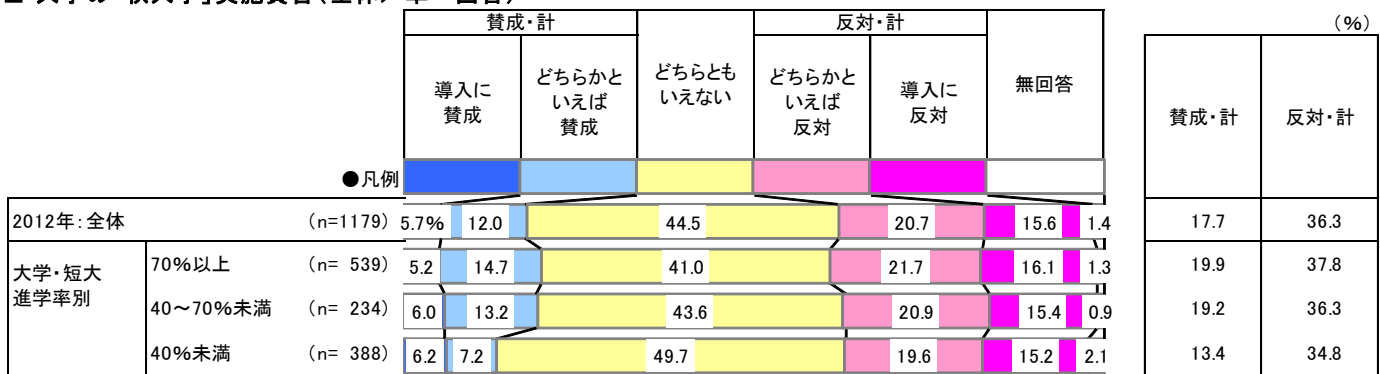
高校教員の17.7%が秋入学導入に賛成。 反対の36.3%の半分程度であった。

- ・秋入学の導入に賛成している高校教員は17.7%と、反対している教員（36.3%）の半分程度であった。

※高校生の意識との比較

高校生の意識（小社が2012年4月に実施した『高校生価値意識調査』、以下同）と比較すると、秋入学を認知している高校生のうち、賛成が37.8%、反対が19.5%という結果となっており、教員と高校生の意識が対照的となっていることがわかった。

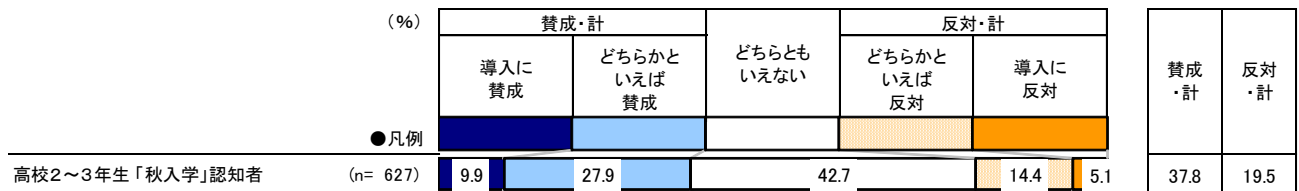
■大学の「秋入学」実施賛否（全体／単一回答）



(参考) 高校生の意識（高校生価値意識調査2012）

■「秋入学」に対する賛否（高校2～3年生「秋入学」認知者／単一回答）

「秋入学」についてどのようにお考えですか。



※質問紙の回答の「導入に賛成」「どちらかといえば賛成」をあわせて「賛成」とした。

【大学の秋入学に対する賛成の理由】

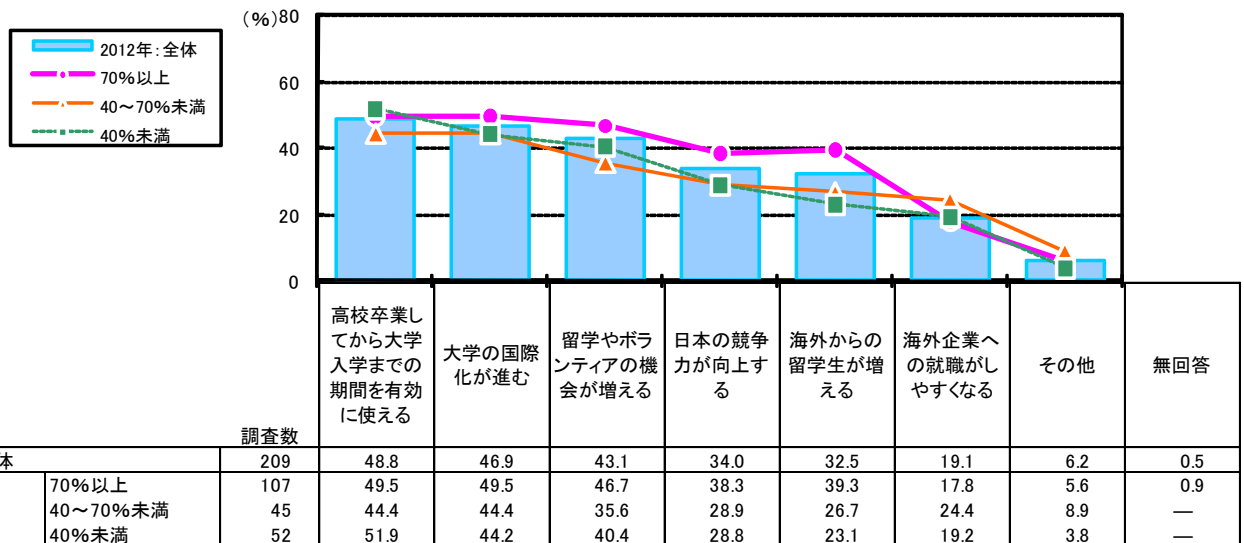
導入に“賛成”の理由のトップは、 「高校卒業してから大学入学までの期間を有効に使える」。

- ・ 賛成理由 第1位 高校卒業してから大学入学までの期間を有効に使える 48.8%
 - 第2位 大学の国際化が進む 46.9%
 - 第3位 留学やボランティアの機会が増える 43.1%
- ・ 大学・短期大学進学率別で比較すると、上記以外では70%以上では「海外からの留学生が増える」が高く、40～70%未満では、「日本の競争力が向上する」「海外企業への就職がしやすくなる」が高かった。

※高校生の意識との比較

高校生の意識と比較すると、賛成理由の第1位「高校卒業してから大学入学までの期間を有効に使える」について、高校生は67.5%と約19ポイント上回っており、ギャップタームの活用イメージに大きく差があることが明らかになった。

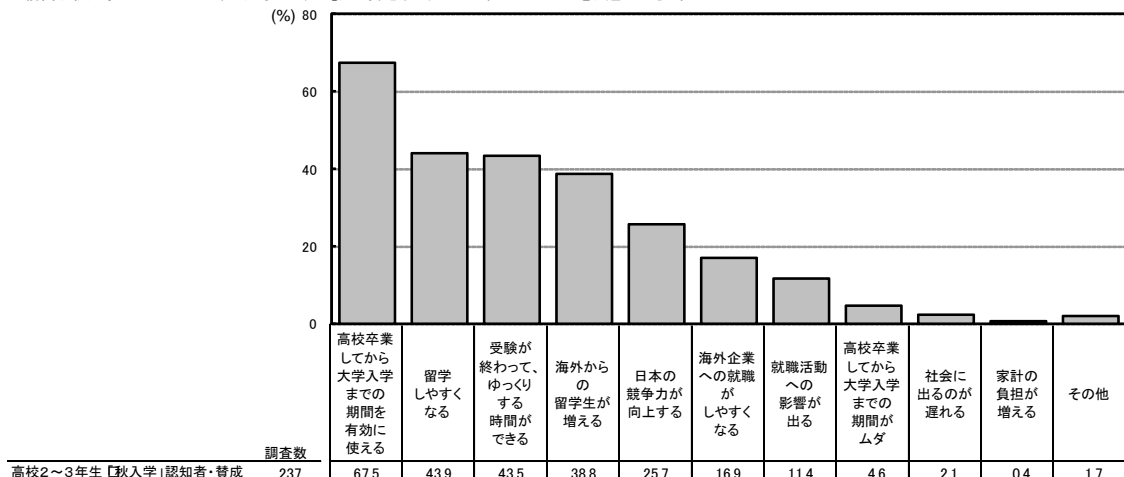
■ 大学の「秋入学」実施賛成理由（「賛成・計」ベース／複数回答）



(参考) 高校生の意識 (高校生価値意識調査2012)

■ 「秋入学」に“賛成”の理由 (高校2～3年生「秋入学」認知者・賛成／複数回答)

前問(「秋入学についてどのようにお考えですか」)でそう思う理由としてあてはまるものをお選び下さい。



※「秋入学」認知者・賛成の降順ソート

【大学の秋入学に対する反対の理由】

導入に“反対”の理由のトップは、「高校卒業してから大学入学までの期間がムダ」。

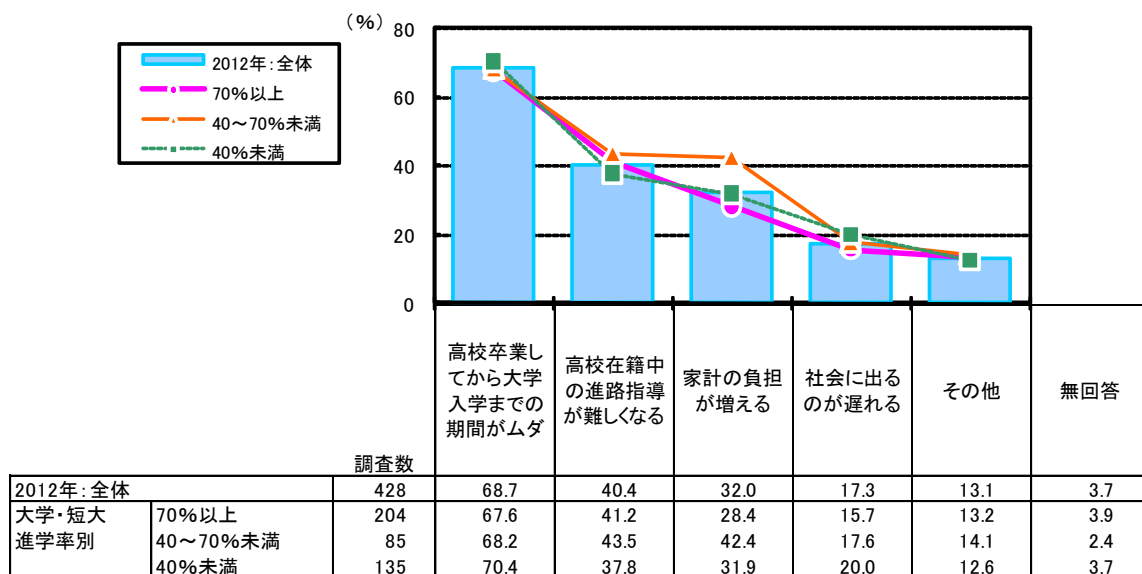
- ・ 反対理由 第1位 高校卒業してから大学入学までの期間がムダ 68.7%
- 第2位 高校在籍中の進路指導が難しくなる 40.4%
- 第3位 家計の負担が増える 32.0%

・ 大学・短期大学進学率別では、40～70%未満は「家計の負担が増える」が高かった。

※高校生の意識との比較

高校生は「社会に出るのが遅れる」（45.9%）が高いのに対し、教員は「家計の負担が増える」（32.0%）が高く、卒業後を気にする高校生と、経済面を不安視する教員の意識の違いが明らかとなった。

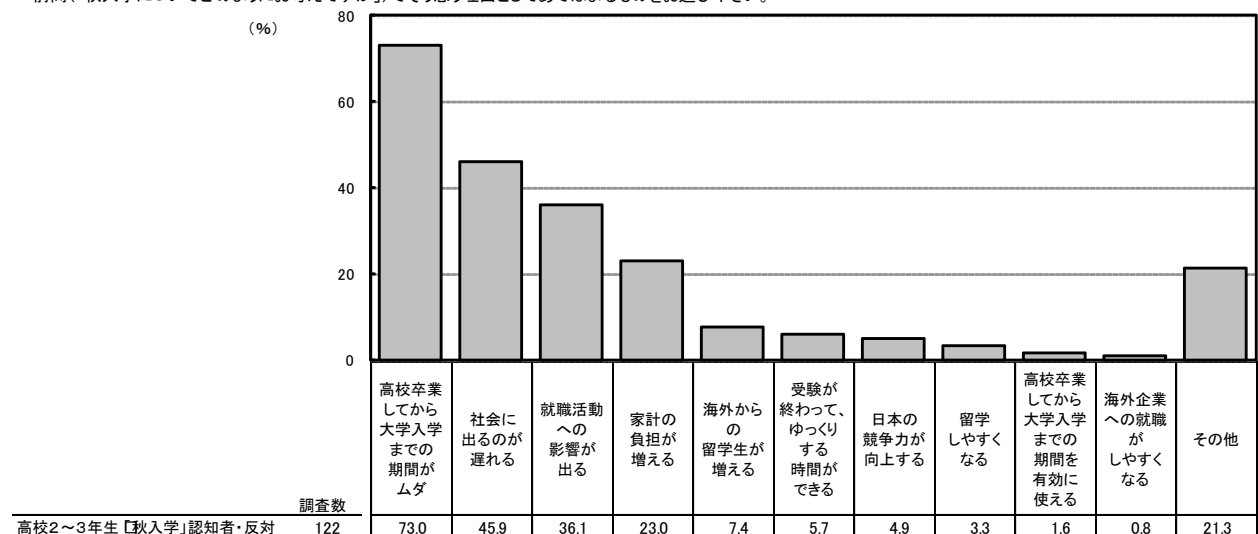
■ 大学の「秋入学」実施反対理由（「反対・計」ベース／複数回答）



（参考）高校生の意識（高校生価値意識調査2012）

■ 「秋入学」に“反対”の理由（高校2～3年生「秋入学」認知者・反対／複数回答）

前問（「秋入学についてどのようにお考えですか」）でそう思う理由としてあてはまるものをお選び下さい。



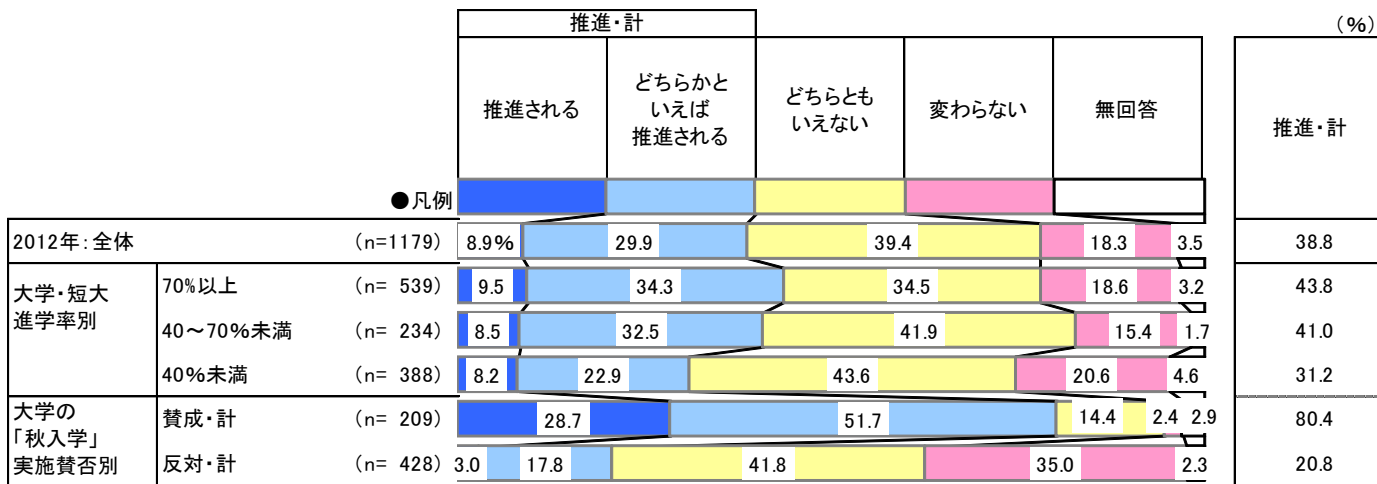
※「秋入学」認知者・反対の降順ソート

【秋入学導入と大学の国際化について】

秋入学が導入された場合、大学の国際化は推進されると考える教員は4割弱。

- ・秋入学が導入された場合、大学の国際化が推進されると考えている高校教員は38.8%と、変わらないと考える教員18.3%の約2倍となった。
- ・また、秋入学の実施賛否別にみると、秋入学に賛成と答えた教員のうち約8割は、国際化が推進されると考えており、秋入学の賛否に影響を与えていることがわかった。

■「秋入学」が推進された場合、大学の国際化は推進されるか(全体／単一回答)



※質問紙の回答の「推進される」「どちらかといえば推進される」をあわせて「推進」とした。

※秋入学導入と大学の国際化について（フリーコメント）

【推進される】

- ・日本の若者は内向き志向だといわれ、外の交流を避ける傾向にある。秋入学により海外の多くの若者が日本で学び、刺激を与えてくれることを期待する。
- ・海外の学生にとって日本の大学が選択肢の一つとなり、日本の大学側も海外からの学生の取り込みを図って様々な方策を練るであろうから。
- ・大学のカリキュラムなどが国際基準になり、大学＝日本の学生のための大学ではなくなっていくと思うから。

【どちらともいえない】

- ・一部の有名大学では期待できるが、すべての大学ではない。
- ・留学生は増えると思うが、日本人学生で留学する者が増えるかどうかはわからない。
- ・「国際化」とは、学生が交流すればよいのか？そうとも考えられない。

【変わらない】

- ・問題は、学生や大学の質であって、意欲や内容の変化がなければ制度を変えてもあまり意味がない。
- ・大学のみが国際化してもその前段階の高校・中学や出た後の社会が今まで通り春からスタートする「年度」で動いていくのであれば、混乱が増えるデメリットの方が多いと思う。
- ・入学までに相当な課題がなければ学生は勉強から離れ、さらなるレベル低下が見込まれる。